スポーツクラブ大手の中間決算、2ケタ増収も水道光熱費の上昇に苦闘中

スポーツクラブ大手の2022年4～9月期（中間）決算はコロナ禍による行動制限の緩和などを背景に2ケタの増収を確保したものの、エネルギー価格の高騰が採算改善に立ちはだかった。水道光熱費の上昇が想定以上の水準で推移したことで、本業のもうけを示す営業利益を圧迫し、業界トップのコナミスポーツは60％を超える減益となった。

コナミ、6割の営業減益

コナミグループ傘下のスポーツ事業（コナミスポーツ）の4～9月期の部門業績は売上高が前年同期比12.6％増の225億円、営業利益は62.4％減の3億円だった。

同社はコロナ禍を契機に、直営店を主体とする事業展開を転換。自治体などからのスポーツ施設の運営受託に軸足を移し、固定費負担が少ない利益重視の経営のかじを切った。しかし、足元はエネルギー価格高騰によるコスト上昇が直撃し、大幅減益を余儀なくされた形だ。

コナミの9月末の施設数は383。コロナ前に180を超えていた直営店は153施設に減る一方、運営受託は現在230施設に拡大し、直営店をしのぐ。ライバルのセントラルスポーツは直営182・受託60施設、ルネサンスは直営104・受託24施設、ティップネスは直営167（総合型57、24時間ジム110）・受託15施設で、コナミと対照的だ。

ジム、スタジオ、プールを備える総合型スポーツクラブでは空調・照明やプール、浴室などの運営にかかる水道光熱費が跳ね上がっているうえ、施設管理費の負担も増している。

ティップネス、通期で赤字脱却なるか

セントラルは営業利益について当初14億円を見込んでいたが、予想を4割下回る8億5200万円で着地した。ルネサンスは前年同期比89.5％の大幅営業増益となったものの、9600万円と低レベルにある。

会員動向（スクール会員を含む）をみると、セントラルが前年同期比0.3％の微増に対し、ルネサンスが同11.3％の2ケタ増だった。

ティップネスは中間期として3期連続の営業赤字。赤字幅は2億5100万円と前年同期の16億円超から大幅に縮小したものの、赤字脱却は果たせなかった。

2023年3月期（通期）の営業利益はコナミ10億円（前期比10倍）、セントラル31億6000万円（同2.1倍）、ルネサンス10億円（同9.5％増）を見込む。売上高はそろって通期で2ケタ増を確保する見通し。ティップネスは通期予想を公表していないが、3期ぶりの営業黒字を悲願としている。

◎スポーツクラブ大手の2022年4～9月期業績（単位億円、△は赤字）

売上高営業利益直営店舗コナミスポーツ225（12.6％増）3（62.4％減）153セントラルスポーツ213（10.1％増）8.52（1.8％減）182ルネサンス198（12.7％増）0.96（89.5％増）104ティップネス130（18.9％増）△2.5（△16.6）167

文：M＆A Online編集部